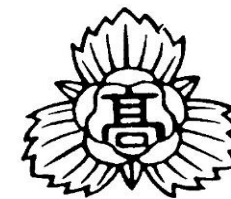


月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
3 年次	目標	<b>コツコツと！ 基礎力固めの春</b>		<b>切り替え！ 学習中心の生活へ</b>		<b>夏を制する！ 受験を制する夏</b>		<b>秋、逃げない！ 学力充実の秋</b>			<b>振り絞れ！ 全力投球の冬</b>		<b>勝ち取るまで！ 最後まで 粘り抜く春</b>	笑顔で卒業		
	進路関係日程	○国数英は1・2年次の総復習 ○勉強・部活動、共に全力で取り組み		○目標を明確にして、平日講習に臨む ○苦手科目の克服と得意教科の強化		○学習計画表を作成し、登校学習で力をつける ○進路目標について、保護者・担任との共通理解を図る		○記述力(書く力)を大切に、赤本や過去問に挑戦する ○理科・社会も含めた5教科バランスよく学習する			○マーク演習だけにならないよう、基礎基本の徹底を図る ○体調管理に気をつけて、本番で力を出し切る		○油断せずに、2次試験・私大入試に向けて、記述力を強化する ○後期試験まであきらめない			
	一般入試日程	1学期中間試験 志望理由書 講演会 (山大教授予定)		進路講演会 平日講習開始 1学期期末試験		大学校内説明会 夏期講習 三者面談 3年特別講習		指定校推薦公示			共通テスト出願 説明会 大学出願説明会 2学期中間試験		推薦入試等 説明会 共通テスト出願 共通テスト 100日前集会		2学期期末試験 冬期講習 3年特別講習 三者面談	出陣式 大学入学 共通テスト 三者面談 二次試験出願 二次講習開始 小論文講演会(希)
目標	<b>総合型選抜 出願希望者 説明会</b>		<b>学校推薦型・ 総合型選抜 出願希望者 説明会 募集要項発表 (7月～12月)</b>		<b>共通テスト 出願説明会・ 書類作成</b>			<b>共通テスト 出願 国公立大・ 私大願書 取り寄せ</b>	<b>私大願書準備</b>		<b>私大出願</b>	<b>共通テスト 私大受験 国公立二次出 願(前・中・後)</b>	<b>私大受験・ 合格発表 前期試験受験</b>	<b>前期合格発表 中期・後期 試験受験・ 合格発表</b>		

2 年次	目標	<b>1) 進路志望をより具体的にする 2) 進路志望の実現に向けて必要な力を身につける</b>											
	進路関係日程	進路講演会 進路希望調査① 課題テスト	受験計画書① 面談週間 1学期中間試験	1学期期末試験	大学校内説明会 夏期講習	課題テスト オープン キャンパス	トップセミナー 進路希望調査② 面談週間 2学期中間試験	進路講演会 面談週間	2学期期末試験 冬期講習	進路希望調査③ 受験計画書②	学年末試験		
		志望分野別進路学習Ⅰ期(希)				志望分野別進路学習Ⅱ期(希)				志望分野別進路学習Ⅱ期(希)			

1 年次	目標	<b>生活習慣の確立と、学びに向かう姿勢の構築</b>				<b>自己の適性を見極め、将来の目標を定める</b>				<b>一年間の振り返りと、次年度への準備</b>			
	進路関係日程	キャリアパスポート 目標設定	進路希望調査① 進路診断 生徒二者面談 1学期中間試験	文理選択の説明 キャリア講演会 学習会 1学期期末試験	夏期講習 1年学習会(希)	課題テスト 保護者二者面談 オープンキャンパス 参加	生徒二者面談 学習会 2学期中間試験	進路希望調査② 文理選択の決定	学習会	2学期期末試験 冬期講習 生徒二者面談	進路希望調査③	学習会 学年末試験	キャリアパスポート 振り返り

令和六年度 年間進路指導計画



進路ニュース

第102号

令和6年7月19日  
発行

寒河江高等学校  
進路指導課

# 「学びの自走力」をつけよう

校長 相澤 哲哉

寒河江高校では、生徒の「学びの自走力」育成を目指しています。「学びの自走力」とは、他から牽引されなくても、高校という学習の場で一人の学習者として、自分で学習できる力をつけること、大学進学後の学習、社会人になってからの学習に大きな影響を及ぼすことから重要と考えています。大学での学習は、授業の何倍も自ら学習することが必要とされ、社会人になってからは、授業はなく全て自ら学習することが求められるからです。

それでは、「学びの自走力」をつけるにはどうすればよいでしょうか。私は、自分の学習全体を俯瞰して、学校の授業は全体の一部にすぎないと認識することが必要と考えています。学習のスタートである小学校低学年は、全てを授業でやっています。宿題は授業における習得を補完する程度であり、体験学習も全て授業の中で行っています。この学習の全ては授業で完結するという学習は、小学校高学年、中学校、高校と学習者自身が徐々に変容させていく必要があります。学習内容が抽象的になり徐々に難解になるからです。学年進行によって、授業は自分の学習にとって必要な資源・材料の一つとして活用して、自律的に学ぶという学習行動に徐々に転換していく必要があるということです。

寒河江高校に入学している生徒の皆さんは、無意識の内にこの学習行動の転換を進めてきたと思います。ただ、進学校の学習内容は難易度が短期間で上がり、かつ、求められる学習量も増加します。学習が辛くなり授業を受けて宿題をこなすのが精一杯となります。進学校には、高校入学まで自律型学習へと転換を進めてきた学習行動を、小学校低学年の授業完結型学習へと逆回転させる危険性ははらんでいると感じています。

二つの処方箋を提案します。一つ目は、予習と復習です。「疑問を持つ予習」をして授業に臨み、授業後に「定着を意識して復習」するという、授業を一部しながら習得型学習サイクルを地道に回すことです。二つ目は、授業を自分流の探究的学習の一部にすることです。探究的に学習するとは、情報を収集し、収集した情報を整理し思考分析してアウトプットすることです。授業を探究型学習のスタートやゴールと考えて自分オリジナルの学習プロセスを繰り返してはどうでしょうか。

こうして学校の授業を習得型学習と探究型学習の一部にできるように、自分で自分の学習をコントロールすることが「学びの自走力」育成の具体の姿かもしれません。

東北大学は昨年度、定員の三〇%を対象としている総合型選抜入試を将来的に定員の全てに移行したいと表明しました。寒高からも昨年度二名がこの総合型選抜で東北大学に合格しています。

寒高生が合格した法学部の総合型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課さない）を紹介します。評定平均四・三以上が出願要件です。一次選考では、筆記試験で論理的思考力と英文読解力が評価され、出願書類で高校の教科成績、学校内外の学習成果、活動実績、英語等の資格が評価されます。二次選考に進むと、面接試験で、国内の地域社会のみならずグローバル社会に生起する法的・政治的諸問題についての関心の程度、国内外の法律・行政・政治に関する実務や研究に将来携わるうとする意志の強さ、英語で話すための基礎的な能力、論理的思考力等について、評価されます。

「学びの自走力」をつけるにはどういうことか、各大学の総合型選抜の出願要件と選抜方法も参考になるようです。

# 『合格のその先を目指して』

進路指導課長 道上 琢磨

## 一 昨年度の受験総括

四クラス編成で在籍生徒数が少ない年度であったが、結果的に国公立大学の合格者延べ数は六十二名となった。難関大学である東北大学に二名をはじめ、金沢大学一名、富山大学一名、新潟大学三名、そして山形大学二〇名と、例年並みの好成績となった。しかし合格した選抜方式別に見ると総合型・学校推薦型選抜で二十五名、一般選抜で三十七名の合格であり、近年急速に拡充しつつある年内入試である総合型・学校推薦型での合格者数が過去最多であった一方、一般選抜での合格者数は過去最少となった。時代の流れに上手く乗りながら様々な受験形態で合格を決めることはできたが、課題も数多く散見されたように思われる。高等学校教育のゴールは大学合格ではない。その先は成人として、大人の支援がなくとも自分一人で主体的に行動し学んでいかなければならない。自分を大きく成長させるチャンスである『受験』が本当に価値あるものになるように、もがき苦しみながらも謙虚な姿勢で自己育成に臨んでいってほしい。今年度も生徒諸君の夢の実現を私たち教員は精一杯支援していく。

## 二 進路実現に向けて

年内入試の拡大に伴い受験時期が全体的に前倒しになってきている。とにかく三年次になってからでは遅いということを意識すべきだ。学習に励み学力を高めることは間違いなく大切であるが、それ以外の能力も多面的に評価される入試が増えてきている。意識を変えるだけで学校生活の質は劇的に変化できるので、高校生活三年間を通して人間形成により力を入れてほしい。日々の挨拶をより大事にし、同世代だけでなく大人とコミュニケーションを取り人前で堂々と話せるように。時間と約束を守り他者との信頼関係を構築できるように。当たり前前に感謝できる謙虚な姿勢を持ち、自分のすべきことには責任感を持って行動できるように。これらは効率的な学習能力の向上につながるのと共に、合格して進学した後も自分を支えてくれる大事な力や習慣となつて根付くはずだ。

# 「大きな夢の実現も小さなこととの積み重ね」

一年次主任 阿部 和之

二〇一〇年の春、鶴岡ドリームスタジアムで花巻東高校が試合をしていました。マウンドには背が高く、細身の投手がいて、周りにいた先生が「あれが期待の一年生らしいよ」と教えてくれました。彼こそ今や世界最高のプレーヤーとなった大谷翔平でした。まだ入学したばかりの大谷選手を見た私の印象はプレーよりもヒョロヒョロした体型（一八七cm・六十kg）のほうが強く、衝撃的なものではありませんでした（ちなみに花巻東高の監督でさえ、才能が抜けていたのは明らかだがドラフト一位になるとも思わなかったと言っている）。しかしその後の大谷選手はドラードラフトでプロ野球選手になり、周囲の予想をはるかに超えた常識外れの進化を遂げていきます。

大谷選手の進化の原点はどこにあるのでしょうか？それは高校時代にあると言われ、本人も高校でだいぶ変わったという話をしています。高校一年生のときに自分自身がつくった目標設定シートは有名で、行動目標のひとつに書き込んでいたのが『人間性』の向上でした。そのため必要と考え出した感謝、思いやり、継続力、礼儀、挨拶、ごみ拾いなどは我々にもできる身近なことです。ですが、大谷選手の手の凄いとところは高校生ながら、その日常の小さな行動に意味を見いだし、『ドラフト一位で八球団からの指名』という目標の実現のためには必要不可欠と考え、実践していたことだと思います。グラウンド上で見られるごみ拾いは運拾いと考え、今も実践しています。高校から染みつけた習慣を変わらずにやっています。高校から染みつけた習慣を変わらず

高校三年間には自分づくりのきっかけとなるものや糧となるものがたくさんあります。その中には皆さんが将来の夢に近づくための原動力になるものがあるかもしれません。皆さんにとって高校での最終目標が進路のことだとすれば、実現するために大切なことは日々の小さな積み重ねにあります。努力を続けた先に成功があると信じ、限りある高校生活をやりきってほしいと思います。

この仕事をしていると「人は変われるのだろうか」についてよく考える。この場合の変化は外見のなごとはではなく、内面的なもので、教員は生徒に内面的な良い変化を求めらるからだろう。皆さんは「人は変われる」、人は変われない」どちらに賛成だろうか。私の意見は、自分のことを考えれば、「変われない」か「変わらない」だ。これまでの自分の人生の中で、小さな変化はあっても、根本は変わってないよ。うに思う。しかしこれまでに会った人の感動的なまでの変化を見ると、「変われる」のかもしれないとも考えしまい、自分の中で永遠のテーマとなっている。

「変われる」とは少し違うかもしれないが、人がこれまでと異なることを習慣化するには、平均六十六日必要との統計的研究がある。二ヶ月あれば、人は異なる日常を習慣化できるらしい。日常が変われば、内面も変わる可能性がある。何となく説得力のある数字ではないだろうか。生徒なら学習習慣、大人なら運動習慣など、ぜひ六十六日間挑戦してみてほしい。

もともと批判的思考の強い私は、「変わった」人々たちは、そもそも変化後がその人の本性だったのではないかと思っっている。その必要がなく発揮されなかつた性分が、必要に迫られて発揮され、それが「変わった」と捉えられたのではないだろうか。潔く「変われる」人がいると認めればいいのに、こんなマイナス思考の自分の考え方は、残念ながら昔からちっとも変われない。疑いもなく「変われる」派の人の意見を聞きたい。それで自分が変われるのだろうか。

自然科学的にはどうだろう。人の細胞は三ヶ月から数年で入れ替わるといふ。細胞レベルで変わっているのなら、変わっても不思議ではない。「変わりたい」派にとっては、肯定的な情報だが、肝心の脳神経細胞は入れ替わらない。これが直接「変われない」理由にはならないが、根本は「変わらない」のかもしれないと感じてしまう。

二年次の生徒は今、「変わる」ことを求められている。進路への気持ちや学習のこと、部活のこと、生活やスマホのこと・・・改めて皆さんは、「人は変われる」、人は変われない」どっちだと考えますか。

私の初任校である楯岡高校（現東桜学館高校）の体育館につながる廊下に、「愚直一徹 西澤潤一」と直筆で力強く書かれた色紙が飾られてあった。この人物こそ、東北大学の総長をはじめ各大学の学長も務めた偉大な研究者である。六年前に他界されたが、現在でも半導体関連の特許保有件数に関しては世界最多であり、「ミスター半導体」や「世界の西澤」と呼ばれた。初任の頃の私は、授業だけでなくクラス経営や保護者対応がなかなかうまくいかず日々迷いを抱えていたからか、この一枚の色紙にインスピレーションを感じ、この言葉を座右の銘にしてきた。

西澤先生の著書は多数に渡るが、初任の際に手にした「私の履歴書 愚直一徹」を今回再び繙いてみた。その中でも特に目を引いたのは、「人生の原点は愛にある」という言葉に収れんできる。積極的に愛に基づいて動き、積極的に愛を育てていく果てしない道程こそわが人生だ」という冒頭の文である。また、「人間には優れた能力があるが、切磋琢磨しないと自分の持っている能力に気が付かずに一生を終えることになる。若い時から大いに切磋琢磨しなければならぬ」という一節である。この言葉が、今でも自分にとって励ましの言葉になっている。また、先生は著書の中でこうも説いておられる。「独創性を大切にする風土が生まれ、独創性豊かな人材を育てる体制が整ったとき、日本に真の科学技術が生まれ、真の工学が育ち、世界を豊かにすることに貢献できるだろう。これも私の夢である。真の工学とは、自然現象を有効利用して、人間の役に立つようにする学問である」と。この西澤先生のメッセージを踏まえ、これから未来ある寒高生諸君に伝えたい。この高校三年間で仲間と切磋琢磨しながら独創性を磨き、とことんまで探究し続ける姿勢を愚直に貫徹して欲しい。そして、社会に少しでも貢献しようとする強い意志を持って欲しい。将来なりたい自分と人生の意味を探究する新たな一歩を踏み出していこう。寒高生としての自覚とプライドに満ち、自ら考え行動していこう。これからの新たな時代を切り拓いていくのは、君たちだ。私自身にとって学ぶこととは、地域社会や共同体をより良くすることであると固く信じて疑わない。

## 「1年次 キャリア講演会」

六月二十日、本校講堂にて、本校OBで現西川町町長である、菅野大志さんをお招きして、「1年次 キャリア講演会」を実施した。今回は、生徒が事前に町長のインタビュー記事を読んだ上で各クラスで質問事項を練り、各クラスの代表一名ずつが町長と並んで座って対談をするという形式で行った。大学・官僚時代の生活から、リーダーとして心がけていること、高校時代の過ごし方や進路の決め方まで、対話形式で生き生きとお話いただいた。文理選択の時期に差し掛かり将来を見据え始めた一年生にとって、時代の先頭を走り続ける先輩のお話はとても意義あるものになった。



1年次



2年次

## 「2年次 山大校内説明会・模擬講義」

令和六年七月二日（火）に、本校の各教室を会場に「令和六年度山形大学校内説明会」が行われた。

会場では山形大学の各学部の教授からそれぞれのテーマに沿った模擬講義をしていただき、生徒は高校の授業とはひと味違う大学の講義に興味・関心をもって聴講する様子が見られた。

人文社会科学部の講義では、中国の監視システムに関する内容が取り扱われ、共産党と監視システムとの意外なつながりに驚きを示す生徒が見受けられた。教授からは講義以外にも大学について（就職先や進学の話など）の話もしていただき、生徒にとって将来の進路を考える上で良い機会になったと思われる。

# 令和6年度 第1回進路志望調査集計結果

1 現在志望している進路

		学 年			
		1年	2年	3年	
進 学	4 年 制 大 学	国立大学	120	116	121
		公立大学	30	33	28
		国公立大学計	150	149	149
		私立大学	12	22	26
		合 計	162	171	175
	準大学	0	2	1	
	短 期 大 学	国立短期大学	0	0	0
		公立短期大学	0	0	3
		私立短期大学	2	0	0
		合 計	2	0	3
各種専門・専修学校	5	1	6		
進学合計		169	174	185	
就 職	公 務 員	国家公務員	0	0	0
		地方公務員	2	0	2
		公務員計	2	0	2
	民 間	県外	0	1	0
		県内	1	0	0
		自営・家業	0	0	0
民間計	1	1	0		
就職合計		3	1	2	

2 進学志望者の分野別内訳

		学 年		
		1年	2年	3年
①	人文科学	14	29	28
②	外国語	4	3	8
③	社会科学	26	27	27
④	教員養成	18	18	20
⑤	生活科学	1	0	1
⑥	芸術	10	16	5
⑦	理	16	20	18
⑧	工	15	12	26
⑨	医（医学部医学科）	4	0	2
⑩	歯	0	0	0
⑪	薬	8	3	3
⑫	保健衛生 （医療・看護系など）	35	32	33
⑬	農・水産	3	9	9
⑭	その他	16	4	5
計		170	173	185

県高校総体を終え、多くの三年生が進路決定に向け切り替えの時期を迎えた六月十二日、ベネッセコーポレーションの浅野貴大氏をお招きし進路講演会が行われた。内容は、希望進路実現に向けた具体的な戦略についてで、「質」「量」そして「メンタル」という観点からお話された。年間のスケジュールが大切で、学習するべき時期に学習ができることや、進路をはっきりさせておくことや、点数を伸ばすための模試の活用方法など具体的にアドバイスをいただいた。最後にメンタルに関して自身の体験談も交えながら、根拠のある自信を持てるように頑張ってもらいたいとメッセージを送っていた。

生徒は現在の生活を書き出し、そこから削って学習にまわせる時間を見つけた。自分に合った学習方法を検討するなど、具体的に戦略を立てる術を学び、決意を新たに受験に向けて力強い一歩を踏み出した。



「三年次 進路講演会」